

平成 25 年度高大連携・学問探検ゼミの成果発表会を開催しました

2014年1月31日に「教育 GP」の中核事業である「学問探検ゼミ（大学2年生向けの中級演習）」の宮町・佐藤ゼミの成果報告会が大分大学経済学部101号教室にて開催されました。当日は大分市内の高校生168名、宮町・佐藤ゼミに所属する経済学部2年生11名、高大の教員19名、合計198名が参加者しました。今年度の「学問探検ゼミ」は、大分鶴崎・大分南・大分^{おぎのだい}雄城台・大分の各高校2年生17名、本学経済学部2年の学生48名が4つのゼミ(城戸ゼミ、大呂ゼミ、宇野ゼミ、宮町・佐藤ゼミ)に分かれて開講しました。宮町・佐藤ゼミには、大分鶴崎・大分南・大分雄城台・大分の各高校から6名、本学経済学部生11名が参加し、高大の教員3名が指導に当たりました。

この事業は「学びは高きに流れる」ことを基本理念として、高大それぞれの立場から連携教育を発展的に推進しようとする取組です。大分県教育委員会と本学は、平成19年7月に高大連携協力協定を結び、平成20年度以降、各高校から生徒を迎え「学問探検ゼミ」を実施してきました。「学問探検ゼミ」は、高校生が学問の入口を大学生といっしょに学ぶことで大学生のリーダーシップの養成、高校生の進学意識の向上や課題を見据えた進路選択の明確化に役立たせようと、高校と本学経済学部との高大連携授業として位置づけられています。

宮町・佐藤ゼミでは、興味関心のある社会科学系学問分野を各グループで設定し、具体的な事例を調査研究してまいりました。テーマの設定や文献調査の仕方、問題意識、論文のまとめ方、高校生の指導など、悪戦苦闘の連続でした。当日は、4グループの発表が行われました。発表テーマは「ゆるキャラがもたらす地域活性化～地域学とミクロ経済学～」、「湯布院について～人気観光地となった理由を経済学から探る～」、「TPPと大分の農業～国際経済学から探る～」、「コンビニの経営戦略」で、いずれも大分県の活性化を目指し各学問分野からアプローチした内容でした。発表後、来場した高校生から「ゆるキャラの人気と地域性の関係」などの質問が多く出され質疑応答が行われました。



終わりに宮町良広教授から受講高校生に修了証書が授与され、佐藤裕哲特任教授が本ゼミの意義と報告会の講評を行い、盛況のうちに閉会となりました。

受講生のアンケートから、「授業に意欲的に取り組んだ（高校生83%、大学生73%）」、「高大の生徒・学生と一緒に良かった（高校生100%、大学生64%）」、「授業の内容は興味持てる内容で合った（高校生83%、大学生64%）」、「総合的に判断して授業は良かった（高校生100%、大学生73%）」、来場した高校生のアンケートから、「発表内容は興味持てる」（90%）、「総合的に判断して今日の発表会は良かった」（97%）などの評価が得られました。

